

道徳通信

～「むこう岸には」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月8日

～道徳「他国の人と理解し合うために大切なのは、どんな心だろう。」を通して考えました～

川のむこう岸には、自分たちと違う人が住んでいるので渡ってはいけないと言われていた「私」。ある日、むこう岸から手を振っている男の子に気づき、手を振り返します。あくる日、「私」はその男の子が綱を引く舟に乗り、むこう岸へ渡ります。男の子の家族は、髪の毛は黄色くもしゃしゃで、にぎやかな色の服を着ています。でも、おじさんはお父さんと同じ漁師で、小さい子は弟と同じように川の石で遊んでいます。「私」は「私たちは違っている。だけど、とってもよく似ている。」ことに気づくのです。

そして、大人になったら「この川に橋をかけるんだ」という夢をもちます。夢を語る「私」にどんな思いがあるのかを話し合い、学びのテーマについて考えました。

●● ●●くん

一回も関わっていないのに決めつけるのは良くないと思った。みんなで仲良くした方がいい。

●● ●●くん

勝手なイメージで相手を悪くして、確かに自分たちとは違うところはあるかもしれないけれど、接してみないとわからないことばかりだと思うから接してみれば印象も変わるかなと思った。

●● ●●くん

他の国のことをめっちゃくちゃ悪いイメージをもたずに、良い国などのプラスで考えると、他の国とも仲良くなれると思う。

●● ●●くん

実際に行ってみないと分からないこともあるし、自分と違っていても、違うってことは新しいことが知れることだと思った。

●● ●●くん

偏見で決めつけずきちんとお互いを理解するべきだと思った。

●● ●●さん

相手と関わりをもっていないのに変な人と勝手に決めつけない。お互いの関わりを増やしていくことが大切だと思いました。それで、村の人たちと仲良くしていけばいいと思いました。

●● ●●さん

他国の人と理解し合うためには、お互いの文化や伝統などを分かり合い、尊重し合うことが大切だと思いました。偏見をもたずに、誰であっても平等に接することが大切だと思いました。

●● ●●さん

偏見によって自分や誰かの行動が制限されてしまったり、相手に失礼な思いをさせる偏見はダメだと思った。自分も普段の生活を見直して、相手に失礼な偏見を持っていないかどうか振り返ってみたいと感じた。

●● ●●さん

偏見をなくすことは難しいことだから、長い時間をかけて少しずついいところを伝えて行く事も大切だなと感じた。

●● ●●さん

外国の人とは接したことが少なくて色々な偏見をもっているけど、外国には外国のよさがあり日本と同じこともあるから交流をして知り合うことが大切だと思った。